

【短報】石垣島におけるチュウジョウテントウの記録

チュウジョウテントウ *Chilocorus chujoi* Sasaji, 2005 はこれまで沖縄島 (Sasaji, 2005; 高橋, 2015; 野林, 2018), 南大東島 (大貝, 2016) から記録されている。筆者は本種を記録の無かった沖縄県石垣島で採集しているため、頂いたデータと共に報告する。

1♂, 沖縄県石垣市八島町, 16. III. 2008, 末長晴輝採集・保管; 5♂♂ 1♀, 同地, 17. III. 2018, 筆者採集・保管; 2♂♂ 2♀♀ (図1), 沖縄県石垣市南ぬ浜町, 12. III. 2018, 筆者採集・保管; 2♂♂ 1♀, 同地, 4. V. 2019, 筆者採集・保管。

八島町 (石垣港付近) では道路沿いに植栽されたビロウから、南ぬ浜町ではビロウ・ソテツ等、計3種の植物から得られた。末長氏に確認したところ、ヤシ科 (記憶頼りだが、おそらくビロウ) から採集したとのこと。



図1. チュウジョウテントウ♂ (石垣島産)。

報告にあたり、データを提供してくださった末長晴輝氏 (倉敷市)、文章の添削をしてくださった伊藤淳氏 (府中市)・中村涼氏 (成田市) に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 野林千枝, 2018. 2017年・沖縄島で目撃・採集した甲虫の記録・琉球の昆虫, (42): 66-91.
 大貝秀雄, 2016. 南大東島で採集されたミカンカメノコハムシ, チュウジョウテントウおよびその他の昆虫. 月刊むし, (550): 29-30.
 Sasaji, H., 2005. Additional revision of the tribe Chilacorini (Coleoptera, Coccinellidae) of Japan. Elytra, Tokyo, 33 (1): 61-68.
 高橋 敏, 2015. テントウムシ科. 初宿成彦編, 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録. (4): 94.

(青井光太郎 158-0083 世田谷区奥沢 1-24-15-302)

【短報】鳥取県米子市でアリアケキイロヒラタガムシを採集

アリアケキイロヒラタガムシ *Enochrus bicolor* (Fabricius, 1792) は塩性湿地に生息する小型の水生甲虫 (ガムシ科) である (中島ら, 2020). 国内では本州 (大阪府, 岡山県), 四国 (徳島県), 九州 (熊本県) から記録されている (Matsui, 1994; 松井, 1996; Kawakami & Hayashi, 2010; 山地, 2012; 中島ら,

2020). 緋田が採集した標本を渡部が同定した結果, 鳥取県および日本海側で初記録となる本種であることが確認されたので, ここに報告する。

本種を採集した米子水鳥公園はラムサール条約登録湿地である中海の一部にあり, コハクチョウやマガンををはじめとする多くの野鳥の渡来地および生息地となっているため, 通常は湿地に立ち入ることはできない。今回は生物相調査の一環として米子水鳥公園に許可を得て採集を行ったものである。

報告に先立ち, 湿地内での採集を許可していただいた米子水鳥公園主任指導員の桐原佳介氏, 鳥取県における記録をご教示いただいた大生唯統氏に深く御礼申し上げます。

3 exs., 鳥取県米子市彦名新田 米子水鳥公園, 14. VIII. 2016, 緋田祐太採集, 渡部晃平・米子水鳥公園保管 (図1)。

本種が確認された敷地内の池は塩分濃度 1~1.5% の汽水であり, 中島ら (2020) が述べたとおり塩分を含む環境であった。

引用文献

- Kawakami, Y. & M. Hayashi, 2010. A new distributional record of *Enochrus (Lumetus) bicolor* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Osaka City, Honshu, Japan. Elytra, Tokyo, 38: 25-26.
 Matsui, E., 1994. Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera: Hydrophilidae). The Transactions of the Shikoku Entomological Society, 20: 215-220.
 松井英司, 1996. 四国で採集した水生甲虫類 (2). 北九州の昆虫, 43 (2): 81-88.
 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版.
 山地 治, 2012. 岡山県産甲虫目録 2012. 401 pp. 岡山県環境保全事業団。

(緋田祐太 509-0125 各務原市鵜沼南町4丁目 81-2)
 (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戌3番地 石川県ふれあい昆虫館)



図1. 鳥取県産アリアケキイロヒラタガムシ。

【短報】石垣島におけるヒメタマガムシの初記録

ヒメタマガムシ *Chaetarthria saundersi* d'Orchymont, 1923 は、2019 年に国内から記録されたばかりのガムシ科の小型種である (Inahata & Minoshima, 2019; 中島ら, 2020)。国内では、これまで西表島と与那国島から発見されていたが (Inahata & Minoshima, 2019; Watanabe, 2019)、筆者は石垣島から本種を採集しているため、同島初記録として報告する。採集した環境は日当たりが良く、水生植物が豊富に生育している耕作放棄地であった。なお、本記録は国内分布の北限記録となる。



図 1. 石垣島産ヒメタマガムシ。

1 ex., 沖縄県石垣市崎枝, 18. V. 2017, 筆者採集・石川県ふれあい昆虫館保管 (図 1)。

引用文献

- Inahata, N. & Y. N. Minoshima, 2019. Occurrence of the tribe Chaetarthriini in Japan (Coleoptera: Hydrophilidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 25: 95–96.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版.
- Watanabe, K., 2019. A new distributional record of *Chaetarthria saundersi* d'Orchymont, 1923 (Coleoptera, Hydrophilidae) from Yonaguni-jima Island, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 9: 289–290.

(渡部晃平 920–2113 白山市八幡町戊 3 番地
石川県ふれあい昆虫館)

【短報】ニセミヤマクビボソジョウカイを新潟県米山で採集

ニセミヤマクビボソジョウカイ *Asiopodabrus* (*Imasakapodabrus*) *pseudolictrius* (Takahashi, 1992) (以下ニセミヤマと略す) は、神奈川県をタイプ産地として記載された種で、現在までのところ、本州の太平洋側に静岡県から福島県まで産地が知られている (Takahashi & Imasaka, 2010)。

新潟県からは、近縁のシライサワクビボソジョウカイ *A. (I.) shiraisawanus* Takahashi et Kiriyama, 2000 (以下シライサワと略す) が湯沢町八木沢、津南町結東、糸魚川市葛葉峠で記録されており (Takahashi & Imasaka, 2010)、新潟県内は、シライサワが全域に分布するのではないかと筆者は考えていた。ところが、新潟県西部に位置する米山において、ニセミ

ヤマと同定される個体が採集されたので、ここに報告する。

1 ♂ 4 ♀ ♀, 新潟県上越市米山, 1. VI. 2017, 筆者採集・保管。

シライサワは、Takahashi & Imasaka (2010) によると、新潟県以外では、岐阜県、福井県および石川県から記録がある。この記録と新潟県内各地の記録から、本州東部の日本海側は、シライサワの分布域ではないかと推測されていたわけである。いっぽう、ニセミヤマの既知分布域の中でシライサワの分布域にもっとも近い産地は、群馬県中之条町大塚で (金井, 2014)、この産地は、シライサワが記録されている湯沢町八木沢から県境の山を隔てて約 30 km 離れている。

シライサワやニセミヤマが属する *Imasakapodabrus* 亜属の各種は、通常は異所的に分布しており、Takahashi & Imasaka (2010) の知見で混生の可能性が考えられるのは、鈴鹿山地西側の地域 (シライサワとトウカイニンフジョウカイ *A. (I.) tokaiensis* Imasaka et Takahashi, 2010 の事例) に限られていた。今回、シライサワの分布域と考えられていた場所でニセミヤマが採集されたことは、両者が混生している第 2 の事例になるか、側所的ではあるが、ニセミヤマがシライサワの分布域内に島状に隔離分布するかのいずれかに該当すると考えられる。今後、新潟県内において、両種の詳しい分布状況の解明が進展することを期待したい。

引用文献

- Takahashi, K. & S. Imasaka, 2010. A revision of the *pseudolictrius* species group of the genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 16: 123–160.
- 金井直樹, 2014. 故八坂允氏採集の甲虫—その 4— (ジョウカイボン科). 乱舞, (22, 23) : 24–32.

(高橋和弘 259–1217 平塚市長持 239–11)

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>